

大滝ダム白屋地区亀裂現象対策検討委員会

第4回委員会 議事要旨

日 時：平成 15 年 12 月 26 日（金） 10:00～12:00

場 所：三井ガーデンホテル奈良 5階「エトワール」

出席者：

委員長	渡	正亮（日本地すべり学会顧問）
委員	吉松	弘行（砂防・地すべり技術センター斜面保全部長）
〃	中村	康夫（独立行政法人土木研究所地質官）
〃	永山	功（独立行政法人土木研究所水工研究グループ長）

議事について：

1. 報告事項

第3回委員会以降の現在までの降雨、貯水状況及び調査ボーリング等の調査内容が報告された。

2. 観測データの確認

これまで確認された亀裂および変状は、貯水位低下後、沈静化していることが確認された。

3. 地形・地質とりまとめ

今回実施されたボーリングでは、深度 50m から 70m まで、亀裂が発達し部分的に角礫化、細粒化、粘土化等が見られ、岩盤が長い年月をかけて風化し、緩み域を形成していることが推定された。この中で特に粘土化が進んだ強風化岩に分類される箇所は、複数の深度に分布し、その一部には鏡肌や条痕などが認められる。今回の地すべりは、湛水によってこの緩み域内の川側斜面で、これらの変形の一部が急速に進行し発生したものである。

4. 地すべり機構と湛水後の変動予測

今後、湛水によって、地すべりブロックの変動と緩み域の不安定化が促進される恐れがあるので、対策を必要とすることが提案され了承された。

5. 対策工の基本検討

1) 今回の対策工法検討条件は、以下のとおりとする。

- ・地すべり・緩み域の計画安全率はそれぞれ 1.10、1.05、とする。
- ・間隙水圧の残留率は、貯水位降下速度は 5m/日として浸透流解析によって決定する。

2) 対策工の提案

- ・地すべりブロックに対しては押え盛土を主体とし、不足分を抑止工（鋼管杭工、アンカー工または深礎工）で補うこと、緩み域については、地下水排除工を計画した。さらに周辺対策として、下流端下部と最上流白屋谷地区に対策工が必要なことが提案され了承された。

6. 今後の斜面監視

斜面変動を監視する目的で、引き続き計器等（伸縮計、傾斜計、水位計、GPS、孔内傾斜計等）による観測が必要であることが提案され了承された。